

降灰予報の改善について

6月29日11時から、噴火した火口の位置に関わらず降灰予報を提供できるよう運用を改善し、長期間活動していない火口から噴火した場合などにも、直ちに対応して降灰予報を発表します。

火山噴火に伴う火山灰（降灰）は、その量に応じて交通機関その他の社会経済活動等に様々な被害をもたらします。気象庁では、全国50火山について24時間体制で常時観測・監視を行っており、噴火が発生した際に、どこに、どれだけの量の火山灰が降るかについて、火山の活動状況に応じて降灰予報を発表しています。

これまでの降灰予報は、火山ごとにあらかじめ想定した代表的な火口からの噴火を対象として情報を提供してきましたが、今般、噴火した火口の位置に関わらず降灰予報を発表できるようシステムを更新するとともに、監視カメラ等を用いて速やかに火口位置を推定して降灰予報を発表する体制を整備しました。このことにより、6月29日11時から、あらかじめ想定した代表的な火口以外から噴火した場合でも、実際の噴火状況に即した降灰予報を直ちに提供する運用を開始します。

本取組により、噴火によって火山灰の影響を受ける住民や自治体の防災対応等に一層貢献してまいります。

問合せ先：地震火山部 火山監視課 川口

電話 03-6758-3900（内線 5185） FAX 03-3434-9044

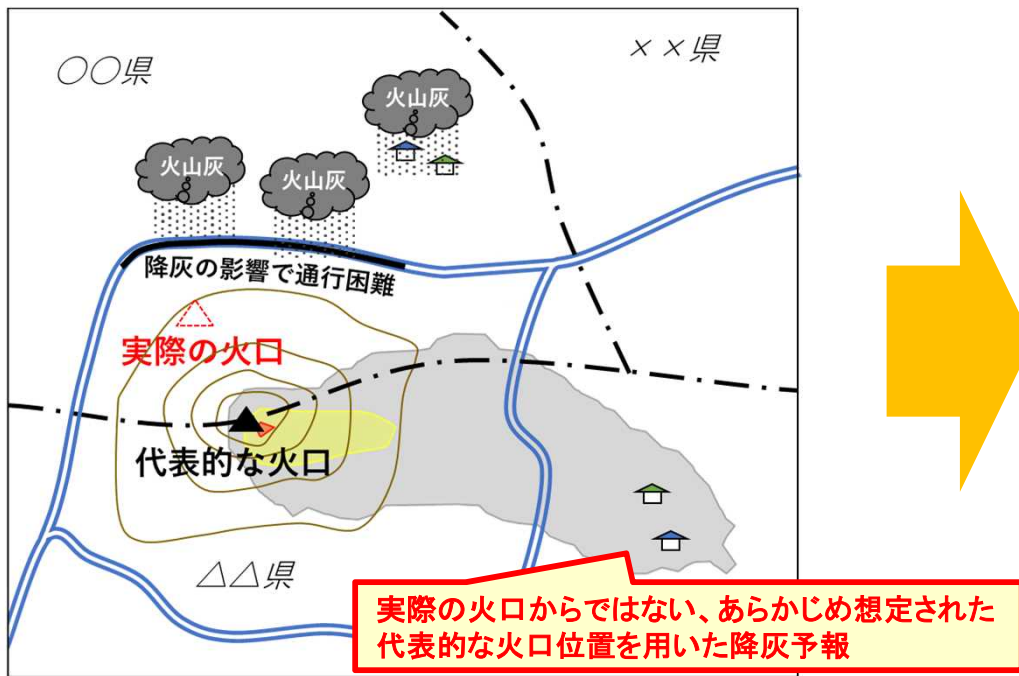
火山毎にあらかじめ想定した代表的な火口からの噴火のみを対象として提供してきた降灰予報を、噴火した火口の位置に関わらず提供することができるよう運用を改善し、噴火によって火山灰の影響を受ける住民や自治体の防災対応等に一層貢献してまいります。

改善のイメージ

代表的な火口(山頂火口)ではなく山腹火口で噴火が発生した場合の例

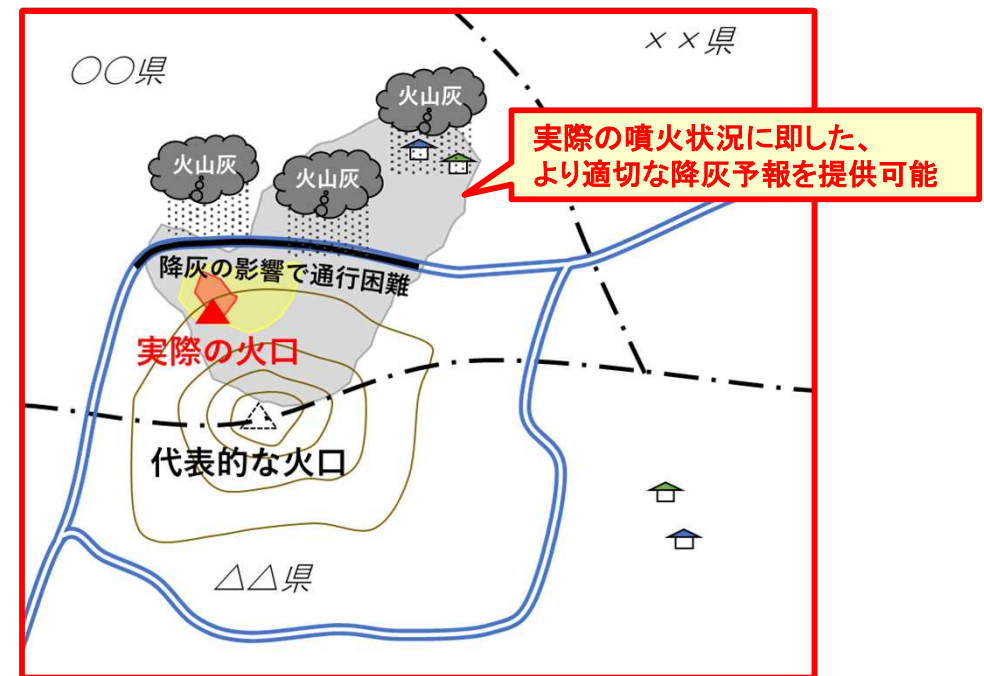
◆改善前

代表的な火口位置を用いた予報のみ提供可能



◆改善後

新たな火口位置を反映して計算した降灰予報を提供



※道路等は降灰予報の活用例を示すためにイメージとして掲載したものです
※例示した図は、高度により風向きが大きく異なる場合を想定したものです

➤ ご利用にあたっての留意事項

代表的な火口以外で噴火が発生した場合は、通常よりも降灰予報の提供に時間を要することがあります。

